

特定外来生物

ツルヒヨドリ

防除パンフレット



名護市

ツルヒヨドリってなに？

ツルヒヨドリは、アメリカ大陸原産のつる性植物です。「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(外来生物法)に基づく特定外来生物に指定されており、栽培・運搬・保管・輸入・植える、蒔く行為、譲渡などが原則として禁止されています。

沖縄では、1984(昭和59)年にうるま市の天願川河口付近で発見され、現在では、沖縄本島中部を中心に北部や南部にも生育域を拡げています。さらに、石垣島や西表島などでも生育が確認されています。

本種は、さまざまな環境に侵入・定着します。そして、非常に旺盛な繁殖力で、他の植物が生育できないほど勢いよく一面に生い茂ります。

名護市内でも、農用地、河川沿い、公園、道路などの造成地、草木の不法投棄箇所が多くみられることから、“人の移動”によって生育箇所が増えている(草刈後処分する草木に混入、靴底等への付着など)と考えられます。

ツルヒヨドリは、驚異的な繁殖力により、在来生態系だけでなく、農作物にも大きな被害を及ぼす可能性があるため、発見したらすぐに防除することが重要です。

特定外来生物の禁止事項

外来種の中でも、特に問題を引き起こす可能性の高い海外起源のものは外来生物法※注1により“特定外来生物”に指定しており、その飼養、栽培、保管、運搬、輸入といった取扱いを規制しています。

※注1特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律



ツルヒヨドリの見た目

葉の長さ:4~13cm
幅:5~10cm



葉の表面は光沢があり、でこぼこしています。

葉の形は基本的にハート形で、葉のふちはギザギザしています。1か所から2枚の葉が出る対生です。

11月~12月にかけて3mmほどの小さな花が咲きます。



1月には綿毛のついた種を付けます。種の大きさは1.5~2mmほどです。

(写真:環境省提供)





林縁部で繁茂する様子

繁殖力

綿毛をつけた種が風によって飛ばされて増えますが、折れた茎からも再生することができます。

英語で「Mile-a-minute weed」(1分で1マイル広がる雑草)の異名を持ち、つるは1日で10cmほど伸びながら葉を広げていきます。

1つの花から4~6個の種を作ります。1つの株は1年間で25m四方に広がり、多いときには4万個の種を作ります。

放っておくとどうなる？

つるで絡みつきながら成長し、マント状に厚い藪を作ります。他の植物を覆いながら生育するため、もともと生育していた植物は、光が当たらなくなり、いずれは枯れてしまいます。

特に、日当たりの良い場所では、勢いよく生い茂ります。また、農作物などに絡みつく農業被害も報告されています。



農用地で繁茂する様子



草地で繁茂する様子



人工物で繁茂する様子

*** ツルヒヨドリは、基本、土地所有者または管理者が防除しなければなりません！**

防除の体制

主体	役割
市民	ツルヒヨドリを確認したら名護市へ連絡
名護市	① 市民からの連絡を受けツルヒヨドリの生育状況を調査 ② 生育状況を、土地所有者または管理者及び地域(区)へ情報提供 ③ 防除実施者へ必要に応じて除草剤を支給 ④ 防除実施後のモニタリング(経過観察) ⑤ 防除実施後に再生育した個体の防除 ⑥ ツルヒヨドリに関する普及啓発 ⑦ 関係機関(国・県等)との連携
土地所有者または土地管理者	① ツルヒヨドリを確認したら名護市へ連絡 (自主的に防除を実施する場合は、事前に情報を名護市と共有する) ② 名護市からの情報提供を受け防除を実施 ③ 防除の実施が困難な場合、名護市及び地域(区)へ相談
地域(区)	① ツルヒヨドリを確認したら名護市へ連絡 (自主的に防除を実施する場合は、事前に情報を名護市と共有する) ② 土地所有者または管理者からの相談を受け防除を実施 ③ ツルヒヨドリに関する普及啓発
ボランティア	土地所有者または管理者及び地域(区)の実施する防除に参加

防除の実施時期

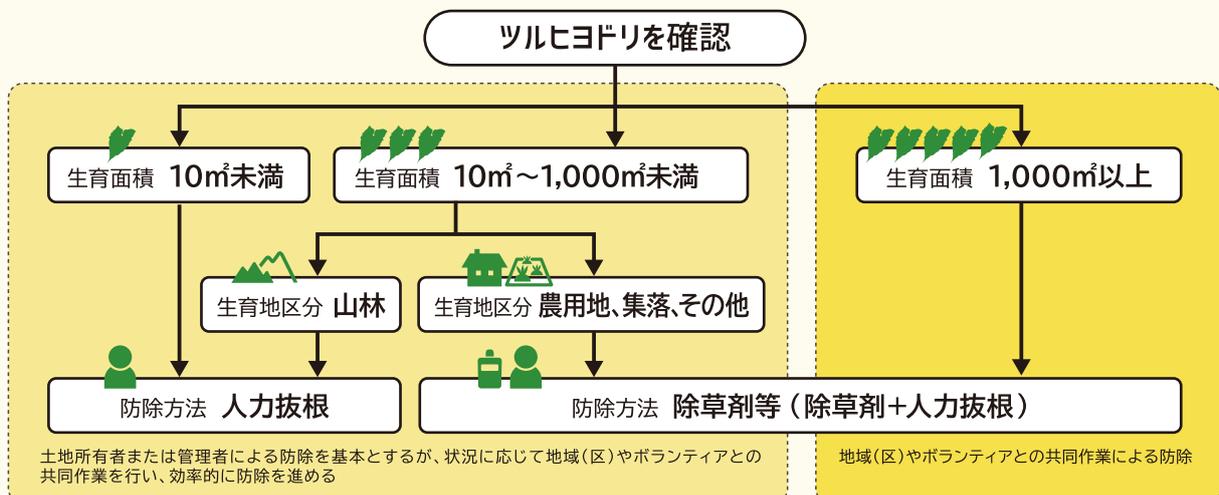
ツルヒヨドリの種は風によって運ばれます。除去作業による種の拡散を防ぐため、防除は原則として種をつける前の季節(11月まで)に実施することが適切です。なお、綿毛を持った種の大きさは1.5~2mmほどで、多い時は1つの株から4万個ほどの種を作ります。



防除方法の選定

防除方法は、**人力抜根**及び**除草剤等(除草剤散布+人力抜根)**とし、年間2~3回程度の頻度で複数年実施します。なお、防除を効率的に進めるため、以下のフローにしたがい、①生育面積、②生育地区分(農用地・集落・山林・その他)に応じて防除方法を選定します。

また、ツルヒヨドリの種などが、手・衣服・靴底・車両に付着したまま移動すると、生育地以外へ拡がるおそれがあります。作業では軍手等を使用するとともに、作業終了後は、使用した衣服の着替え、靴底の洗浄(靴を履き替える)、車両の洗浄などを徹底し、拡散を防ぎます。



防除方法：人力抜根

手作業でツルヒヨドリを根から丁寧に引き抜きます。また、高所に生育しているツルヒヨドリは、茎の途中から切断して枯らせます。



根茎から容易に再生するので可能な限り根まで抜き取る。



高所に育成している場合は茎の途中から切断して枯らす。



刈り取りを行う際は、根や茎からも発根する可能性があるため抜き取る。



抜き取り後すぐの根は再生能力が高いため、ビニール袋等に入れ、焼却する。



再生がみられなくなるまで継続的に抜き取る。

防除方法：除草剤等（除草剤＋人力抜根）

除草剤を散布して全部枯らせた後、再生してきた部分を人力抜根によって抜き取ります（ツルヒヨドリは再生能力が高く、残った根や茎から再生します）。

また、初回の除草剤散布から時間がたち、草が生い茂って人力抜根作業に支障が生じる場合は、再度除草剤を散布します。

なお、水系周辺に生育している場合は、薬剤が水域へ流出しないように十分な対策を講じます（霧吹きによる葉への散布、除草剤を葉に直接塗るなど）。



STEP①

初回作業：除草剤散布（ツルヒヨドリを枯らせる作業）



噴霧器による散布



霧吹きによる散布



直接塗布

およそ1か月後

STEP②

ツルヒヨドリが枯れた後の作業： 再生してきた部分は人力抜根（手で根から丁寧に引き抜く）



除草剤散布1か月後の様子



再生部分



人力抜根のイメージ

※ツルヒヨドリの処分について

防除したツルヒヨドリの処分については、必ず、名護市環境対策課へご連絡下さい。

市内の現状

調査の結果、189地点でツルヒヨドリを生育を確認し、その生育面積は、81,661㎡(タピックススタジアム名護 約4.5個分)でした。

市内におけるツルヒヨドリ生育状況（令和2年末時点）

地区名	区名	生育地点			生育面積			
		地点数	割合	順位	面積(m ²)	割合	順位	
屋部	屋部	26	13.8%	1	16,238	19.9%	2	
	宇茂佐	24	12.7%	2	23,999	29.4%	1	
	宇茂佐の森	3	1.6%	17	609	0.7%	15	
	中山	17	9.0%	3	8,767	10.7%	4	
	旭川	6	3.2%	10	905	1.1%	11	
	勝山	11	5.8%	4	2,715	3.3%	7	
	山入端	6	3.2%	10	584	0.7%	16	
	安和	9	4.8%	6	779	1.0%	12	
	名護	喜瀬	4	2.1%	13	729	0.9%	14
		幸喜	3	1.6%	17	754	0.9%	13
許田		9	4.8%	6	3,036	3.7%	5	
数久田		6	3.2%	10	522	0.6%	19	
世富慶		3	1.6%	17	11,112	13.6%	3	
東江		3	1.6%	17	575	0.7%	17	
大東		1	0.5%	27	30	0.1%	32	
名護		2	1.1%	23	300	0.4%	23	
宮里		7	3.7%	9	312	0.4%	22	
為又		9	4.8%	6	2,108	2.6%	8	
羽地	源河	2	1.1%	23	89	0.1%	25	
	真喜屋	1	0.5%	27	40	0.1%	30	
	古我知	1	0.5%	27	150	0.2%	24	
	我部祖河	3	1.6%	17	84	0.1%	26	
	呉我	1	0.5%	27	50	0.1%	27	
久志	久志	10	5.3%	5	1,722	2.1%	9	
	豊原	4	2.1%	13	434	0.5%	20	
	辺野古	2	1.1%	23	2,900	3.6%	6	
	二見	4	2.1%	13	391	0.5%	21	
	瀬嵩	1	0.5%	27	45	0.1%	29	
	三原	1	0.5%	27	1	0.1%	33	
	安部	1	0.5%	27	50	0.1%	27	
	天仁屋	2	1.1%	23	31	0.1%	31	
	屋我地	饒平名	3	1.6%	17	1,025	1.3%	10
		我部	4	2.1%	13	575	0.7%	17
合計		189	100.0%	-	81,661	100.0%	-	

名護市では、ツルヒヨドリ防除にご協力いただけるボランティアの方々を募集しています。

○連絡先 〒905-0001 沖縄県名護市字安和1863番地13 名護市 環境水道部 環境対策課 環境保全係
電話:0980-43-0101 FAX:0980-43-0122